

自殺ゲートキーパー育成に向けての活動

学科・専攻

養護保健学科

担当教員

養護保健学科 全教員



連携先

藤井寺保健所

柏原市健康福祉課



プログラム内容

①若者の心の動き、特徴、②現代の自殺の現状、③ゲートキーパーの役割、④若者に対するコミュニケーションのありかたや効果的な傾聴など基本的な技術(ロールプレイングを行い、コミュニケーションのあり方、効果的な関わり方、ふさわしい自分のふるまい)、⑤依存症とその弊害、対処法、について講義およびロールプレイ演習を通して学習しました。

成果・考察

- ・ 柏原市健康福祉課と協働で自殺ゲートキーパー育成研修を実施しました。自殺について正しい知識を持ちあらゆる年代、状況下において自殺の危険性があることを学び、コミュニケーションの重要性と対応について学習しました。3人1組でロールプレイを行い、傾聴の基本的な技法を用いて対応のあり方を学びました。学生は児童生徒の心のケアについて理解を深め、地域のゲートキーパーとしての自己の役割を認識することができました。
- ・ 藤井寺市保健所地域保健課職員には心のケアとして、ストレスとストレスコーピング、アルコール等含めた依存症についての講義、断酒会の方の実際の体験談等を聞くことにより理解を深めることができました。



傾聴に関するロールプレイをしました。



依存についての講義を真剣に聞いています。



もし身近な人が依存症の問題で困っていたら…という内容で話し合い、発表しました。



養護保健学科

高森香 准教授

この講座でこころの健康や依存症、ストレス等様々な対応について学びます。

自殺ゲートキーパー育成研修では、自殺について正しい知識を持ち、声掛けの大切さ、難しさを学ぶことができました。また傾聴についても学習し、実際に参加者同士でロールプレイを行いました。

今後は、児童生徒、地域住民または身近な方々が自殺の危機に陥った際にはSOSをキャッチし声をかけるなど、行動できる力を培ってほしいと思います。



養護保健学科

1年生 石田めぐみさん

この講座で、自殺の原因は様々で、若者の自殺者が増えている現状を学びました。そして、そのような方々が日々不安や孤独感の中にいると思うと胸が苦しくなりました。

深刻な悩みを抱える方に、まずは共感していくこと、話しやすい雰囲気を作り傾聴することが大切だと思います。

その人に寄り添い、相手のペースに合わせたサポートを行うことを大切にしたいと思いました。